

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

第六號

第五卷

大正六年十二月一日發行

論說

社會學ト社會科學(一).....

文學士

高田保馬

租稅ニ於ケル強制ト任意.....

法學博士

神戶正雄

總同盟罷工論.....

法學士

河田嗣郎

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(三).....

法學博士

田島錦治

墨子ノ經濟思想(二完).....

文學士

小島祐馬

西歐主義(三).....

文學士

米田庄太郎

土佐藩ノ地割制度(三).....

文學士

小野武夫

時事問題

日米協定ト日本ノ經濟.....

法學博士

神戶正雄

米國ノ貿易制限策.....

法學博士

戸田海市

雜錄

佛國ノ戰時食料政策.....

文學士

山本美越乃

英國戰前ノ海運及貿易情況.....

法學士

小島昌太郎

獨逸側ヨリ觀タル英國戰時ノ勞働者階級.....

法學士

櫛田民藏

最近獨逸經濟思潮.....

法學博士

神戶正雄

日英ノ物價趨勢.....

法學士

河田嗣郎

墨子ノ經濟思想 (二、完)

小島祐馬

二 兼愛ノ社會 (續)

四

墨子ノ兼愛主義ハ大略以上述べタル如キ者デアルガ、其中戰爭攻伐ノ事ニ就イテハ、墨子ハ特ニ非攻ノ論ヲ爲シテ痛ク之ヲ排撃シテ居ルガ故ニ、今少シク其梗概ヲ述ベテ置カウ。彼ハ戰爭ノ罪惡ナルコトヲ道德上及ビ經濟上ノ兩面ヨリ説イテ居ルガ、今經濟上ノ説ハ之ヲ次節ニ譲リ、茲ニハ專ラ道德上ノ説ヲ紹介スルコトトセウ。戰爭ノ天意ニ添ハザルモノナルコトハ最早論ズルマデモナイ。ソレニ世人ガ戰爭ヲ是認スル理由ガ墨子ニハ解セラレナイ。曰ハク「今一人アリテ人ノ園圃ニ入り其桃李ヲ竊マバ、衆聞イテ之ヲ非トシ、上ニ在リテ政ヲ爲ス者モ捕ヘテ之ヲ罰スル。何故カトイフニ是レ他人ニ損害ヲ加ヘテ自己ヲ利益スルカラデアル。人ノ飼養セル犬豕雞豚ヲ攘ムモノニ至ツテハ、其不義桃李ヲ竊ム者ヨリモ甚シイ。是レ何故カトイフニ其他人ニ損害ヲ加フルコト愈多キガ爲メデアル。他人ニ損害ヲ與フルコト愈多ケレバ、其不仁茲々甚シク罪益々厚クナル」(註一)ト。又曰ハク「今一人ノ辜ナキ者ヲ殺サバ世人之ヲ不義ト言ヒ、必ズ一死罪アリ。若シ此論ヲ以テ推サバ、十人ヲ殺サバ不義ヲ十重シ、必ズ十ノ死罪アリ、百人ヲ殺サバ不

義ヲ百重シ、百ノ死罪アルベキデアル」(註二ト)。而シテ戰爭ハ劫奪ノ最大ナル者デアリ殺人ノ最甚シキ者デアル。然ルニ世人ハ國ヲ篡奪スル大盜ニ對シテハ、獨之ニ刑罰ヲ加フル能ハザルノミナラズ、却ツテ奴顏婢膝諛頌ヲ獻ジテ、仁義目出タキ聖王明君ト尊崇シテ居ル。「今人アリ少シク黒ヲ見テ黒ト曰ヒ、多ク黒ヲ見テ白ト曰ハバ、必ズヤ此人ヲ以テ白黒ノ辨ヲ知ラザル者ト爲スデアラウ。少シク苦ヲ嘗メテ苦ト曰ヒ、多ク苦ヲ嘗メテ甘ト曰ハバ、必ズヤ此人ヲ以テ甘苦ノ辨ヲ知ラザルモノト爲スデアラウ。今少シク非ヲ爲サバ知リテ之ヲ非トシ、大ニ非ヲ爲シ國ヲ攻ムルヲバ非トスルヲ知ラズ、從ウテ之ヲ譽メテ義トイフ。此レ義ト不義トノ辨ヲ知ル者トイフコトガ出來ヤウカ」(註三ト)罵ツテ居ル。然ルニ世或ハ戰爭ノ有利ナルコトヲ説キテ其説ヲ飾ルモノガアル。即チ楚越齊晉ノ強國ハ、其初メ封セラレシ時ハイツレモ皆方數百里ノ小國デアツタガ、今ハ他國ヲ併吞セル結果、天下ヲ四分シテ其一ヲ有ツノ盛大ヲ致シテ居ル、是レ偏ヘニ戰爭ノ賜デハナイカト。之ニ對シ墨子ノ答辯ハ極メテ明快デアル。曰ハク「古天子ノ始メテ諸侯ヲ封ズルヤ萬有餘國アリ。今ハ併吞セラルルノ故ヲ以テ萬有餘國皆滅ビテ、楚越齊晉ノ四大國獨存スルノミデアル。是レ譬ヘバ醫ガ萬有餘人ニ藥ヲ與ヘテ、其中ノ四人ガ偶愈エタト同様デアル。此ノ如キハ決シテ良醫ト謂フコトハ出來ナイ」(註四ト)。即チ戰爭ハ少數者ニ偶然ノ利益ヲ與フル爲メニ、一般ノ者ノ利益ヲ無視スルモノデアツテ、是レ實ニ天下ノ巨害デアルト爲スノデアル。

尤茲ニ注意スベキハ墨子ハ絶對ニ戰爭ヲ排斥スル者デハナイ。彼ハ戰爭ニ攻ト誅トノ區別ノアルコトヲ言ツテ居ル。以上述べし所ノ如キハスベテ皆攻デアル。誅トハ禹ノ有苗ヲ征シ、湯ノ桀

ヲ伐チ、武王ノ紂ヲ討ツガ如キ類デアル。此等ハ皆人民ヲ救ハンガ爲メニ其社會ヲ毒スル罪惡ヲ誅討スル者、是レ治安ノ必要上已ムヲ得ザルニ出デタル者デアツテ、私欲ヲ逞シクセン爲メノ攻伐ト同一視スベキモノデハナイト説イテ居ル(註五)。猶又彼ハ攻伐ヲ非トスルモ守戰ヲ非トスル者ニハ非ズ。他ヨリ攻撃セラルレバ自衛上防禦ノ必要アリ、是レ當然ノ事デアル。サレバ亂寇盜賊ヲ圍ガン爲メノ軍盾五兵ヲ爲ルノ説アリ(註六)。又備城門備高臨諸篇防禦ノ設備ヲ説クモ之ガ爲メデアル。要スルニ墨子ハ私人略奪ノ爲メノ攻伐ヲ排斥スルモ社會自衛ノ爲メノ軍備ハ之ヲ是認スルモノデアル。

(註二) 今有一人、入人園圃、竊其桃李、衆聞則非之、上爲政者得則罰之、此何也、以虧人自利也、至攘人犬豕雞豚者、其不義又甚入人園圃竊桃李、是何故也、以虧人愈多、苟虧人愈多、其不仁茲甚、罪益厚、(非攻篇上)

(註三) 殺一人、謂之不義、必有一死罪矣、若以此說往、殺十人十重不義、必有十死罪矣、殺百人百重不義、必有百死罪矣、(同上)

(註四) 今有人於此、少見黑白、多見黑白、則必以此人爲不知白黑之辯矣、少嘗苦曰甘、多嘗苦曰甘、則必以此人爲不知甘苦之辯矣、今小爲非則知而非之、大爲非攻國、則不知非、從而譽之、謂之義、此可謂知義與不義之辯乎、(同上)

(註五) 古者天子之始封諸侯也、萬有餘國、今以并國之故、萬有餘國皆滅、而四國獨立、此譬猶醫之藥萬有餘人、而四人愈也、則不可謂其醫矣、(非攻篇下)

(註六) 非攻篇下、

(註六) 節用篇上、

三 富國ト衆民

一 墨子ノ兼愛主義ハ精神的無形の方面ヨリ社會ヲ改革セントスルモノデアルガ、彼ハ更ニ物質的有形の方面ヨリモ其改革ヲ考察スルコトヲ忘レナカッタ。即チ彼ハ賢者ヲ尙ビテ兼愛交利

ノ精神ヲ天下ニ普及セシメントスルト同時ニ、國家ヲ富マシ人民ヲ衆クシ刑政ヲ治ムルノ三策ノ必要ナルコトヲ瀕リニ説イテ居ル。曰ハク「仁者ノ天下ノ爲メニ度ルヤ、天下貧ケレバ之ヲ富マサンコトニ從事シ、人民寡ケレバ之ヲ衆クセンコトニ從事シ、衆クシテ亂ルレバ之ヲ治メンコトニ從事ス」(註一)ト。就中其刑政ヲ治ムルノ策ハ一般行政ノ事項ニ關スルモノデアツテ、且墨子ハ之ニツキ多クヲ語ツテ居ラスガ故ニ姑ク之ヲ措キ、今ハ其國ヲ富マシ民ヲ衆クスルノ一策ニ就キ、其概略ヲ述ブルコトトセウ。先ヅ國ヲ富マスノ策ヨリ始ムル。

墨子モ他ノ多クノ支那ノ學者ト同ジク經濟ガ人ノ道德思想ニ及ボス影響ヲヨク認メテ居ル。即チ「時ニ年歲善ナレバ民仁ニシテ且良シ。時ニ年歲凶ナレバ民吝ニシテ且惡シ。夫レ民何ノ常カ之レ有ラン」(註二)ト言ツテ居ル。而シテ凡ソ一國ノ治マラザルハ、一面ヨリ觀レバ衣食ノ財乏シクシテ爭奪ノ行ハルルコトガ其原因デアアル。外國ニ侵略セラレントスルモ、一面ヨリ觀レバ其國ニ積委無ク上下調和セザルコトガ其原因デアアルト爲シテ居ル(註三)。墨子ガ國ヲ富マスコトノ社會生活上如何ニ重大ナル事柄デアルカヲ認メテ居タコトハ是レニ由ツテモ明デアアル。其國ヲ富マスノ策ニ二ツアル。一ハ勤勞主義デアツテ一ハ節用主義デアアル。

(註一) 仁者之爲天下度也、……天下貧、則從事乎富之、人民寡、則從事乎衆之、衆而亂、則從事乎治之。(節要篇下)

(註二) 時年歲善、則民仁且良、時年歲凶、則民吝且惡、夫民何常有之、(七患篇)

(註三) 節要篇下、

二 墨子ハ極端ナル勤勞主義デアルトイフコトガ傳ヘラレテ居ル。例ヘバ『莊子』ニ墨子ノ學說「後世ノ墨者ヲシテ多ク裘褐ヲ以テ衣ト爲シ、跂蹻ヲ以テ服ト爲シ、日夜休ハズ、自ラ苦シム

ヲ以テ極ト爲サシム」ト言ヒ、又「墨翟禽滑釐ノ意ハ則チ是ナルモ、其行ハ非デアル。將ニ後世ノ墨者ヲシテ必ズ自ラ苦シミ、胼ニ胝ナク脛ニ毛ナキヲ以テ相進マシメントスルノミ」(註二)ト言ツテ居ルノヲ見テモ其一斑ヲ窺フコトガ出來ル。然ルニ今日殘存セル其書中ニハ、積極的ニ勤勞ノ必要ヲ説キシ所ハ一モ見エナイ。併シ到ル處彼ノ言説ノ裏ニハ、勤勞主義ヲ前提トスルモノナルコトガ十分ニ認メラルルノデアル。今其二三ヲ示サバ、其天下ノ分事ヲ數ヘテ音樂ノ害ヲ述ブル條ニハ「王公大人蚤ク朝シ晏ク退キ、獄ヲ聽キ政ヲ治ム、此レ其分事デアル。士君子股肱ノ力ヲ竭シ、其思慮ノ智ヲ直シ、内ニハ官府ヲ治メ、外ニハ關市山林澤梁ノ利ヲ收メ、以テ倉廩府庫ヲ實タス、此レ其分事デアル。農夫蚤ク出デ暮ニ入り、耕稼樹藝、多ク叔粟ヲ聚ム、此レ其分事デアル。婦人夙ニ興キ夜ニ寢ネ、紡績織紝、多ク麻絲葛緒ヲ治メ布練ヲ細ル、此レ其分事デアル」(註二)ト言ヒ、又久喪ノ害ヲ論ジテハ「王公大人ヲシテ之ヲ行ハシメバ必ズ蚤ク朝シ晏ク退キ、獄ヲ聽キ政ヲ治ムルコト能ハズ。士大夫ヲシテ之ヲ行ハシメバ、必ズ五官六府ヲ治メ、草木ヲ辟キ倉廩ヲ實タスコト能ハズ。農夫ヲシテ之ヲ行ハシメバ、必ズ蚤ク出デ夜ニ入り、耕稼樹藝スルコト能ハズ。百工ヲシテ之ヲ行ハシメバ、必ズ舟車ヲ修メ器皿ヲ爲ルコト能ハズ。婦人ヲシテ之ヲ行ハシメバ、必ズ夙ニ興キ夜ニ寢ネ、紡績織紝スルコト能ハズ」(註三)ト言ツテ居ル。其早ク興キ晏ク寢スルト言ヒ、多ク聚メ多ク治ムト言フノ類、以テ其勤勞主義ヲ裏面ヨリ窺フニ足ルモノガアラウト思フ。又彼ガ非命篇ニ於テ世ノ宿命說ヲ唱フルモノヲ排斥セルガ如キ、亦民ノ宿命ヲ言ヒテ勤勞ノ效果ヲ無視シ生産ニ努力セザルノ弊風ヲ除去シ、出來得ル限り國ノ生産力ヲ發展セシメン

トスルノ用意ニ外ナラザルモノデアル。是レ實ニ正面ヨリ貧困ヲ救フノ策デアル。

猶ココニ注意スベキコトハ墨子ノ生産ヲ言フヤ、多クハ常ニ農夫婦人百工ヲ並ベ稱スルモ、未ダ嘗テ商賈ニ就キテ一言ヲ費セシコトガ無イ。其意蓋シ商賈ヲ以テ無用ノ產業ト爲スモノデアラウ。又必ズ婦人ヲ農工ト並ベ舉ゲルコトハ、生産ニ關シテ婦人ノ地位ヲ認ムルコト頗ル重キモノト謂ハナケレバナラス。

(註一) 使後世之墨者、多以裘褐爲衣、以股蹄爲履、日夜不休、以自苦爲極、……墨翟禽滑釐之意則是、其行則非也、將使後世之墨者必自苦、以腓無胈脰無毛相進而已矣、(莊子「天下篇」)

(註二) 王公大人蚤朝晏退、聽獄治政、此其分事也、士君子竭股肱之力、亶其思慮之智、內治官府、外收斂關市山林澤梁之利、以實倉廩府庫、此其分事也、農夫蚤出暮入、耕稼樹藝、多聚叔粟、此其分事也、婦人夙興夜寐、紡績織紝、多治麻絲葛緒、細布緣、此其分事也、(非樂篇上)

(註三) 使王公大人行此、則必不能蚤朝晏退、聽獄治政、使士大夫行此、則必不能治五官六府、辟草木實倉廩、使農夫行此、則必不能蚤出夜入、耕稼樹藝、使百工行此、則必不能修舟車爲器血矣、使婦人行此、則必不能夙興夜寐、紡績織紝、(節葬篇下)

三 次ニハ其節用主義デアル。墨子曰ハク「聖人政ヲ一國ニ爲セバ一國倍スルコトガ出來ル。

之ヲ大ニシテ政ヲ天下ニ爲セバ天下倍スルコトガ出來ル。其之ヲ倍スルハ外ニ地ヲ取ルニ非ズ、其國家ニ因ツテ其無用ノ費ヲ去レバ以テ之ヲ倍スルニ足ル。聖王政ヲ爲ス、其令ヲ發シ事ヲ興シ、民ヲ使ヒ財ヲ用フルニ、實用ヲ加ヘザルニ爲ストイフコトハナイ。是ノ故ニ財ヲ用フルコト費サズ、民ノ德勞セズ、其利ヲ興スコトガ多イ」(註二ト)。是レ節用ガ國ヲ富マスノ策タル所以ノ説明デアル。墨子ノ所謂節用トハ、詳シク言ヘバ無用ノ消費ヲ去リ且生産ノ障礙ヲ除カントスルノデアアル。ソレデハ當時ニアリテ無用ノ消費、生産ノ障礙トナルモノハ果シテ何ゾトイフニ、彼ハ富

貴ノ者ノ日用生活ノ奢侈戰爭音樂及ビ厚葬ノ禮ヲ以テ其主ナルモノト爲シテ居ル。

墨子ハ王公大人、卽チ當時唯一ノ富貴ノ階級ノモノガ、彼等ノ生活上ニ奢侈ニ耽ルトイフコトガ、一般人民ヲ困シメ國家ヲ貧ナラシムル所以デアルトスルノデアル。彼ハ先ヅ「足財ナキニ非ズ、吾ニ足心ナキナリ」(註二)ト言フ古語ヲ引キテ、足ルコトヲ知レバ富ムノ理ヲ示シテ居ル。ソコデ王公大人ト雖其衣食住ハ皆最少限度ニ於イテ満足スベキモノトスルノデアル。卽チ彼ノ所謂古聖王ノ制ニ從ヘバ「飲食ハ虚ヲ充テ氣ヲ繼ギ、股肱ヲ強クシ耳目ヲ聰明ナラシムレバ則チ止ム。衣服ハ冬服紺緞ノ衣ハ輕ク且暖ニ、夏服絺綌ノ衣ハ輕ク且清ケレバ則チ止ム。宮室ハ其旁以テ風寒ヲ圍グベク、上ハ以テ雪霜雨露ヲ圍グベク、其蠲潔以テ祭祀スベク、宮牆以テ男女ノ別ヲ爲スニ足レバ則チ止ム。諸ノ費ヲ加ヘ民ノ利ヲ加ヘザル者ハ聖王ハ爲サズ」(註三)ト。是レガ卽チ彼ノ理想デアアル。然ルニ當時ノ王公大人其衣食住ヲ定ムルコト必ズ厚ク、之ニ加フルニ其左右ノ者マデ之ニ象リ奢侈ヲ極メテ居ル。從ツテ財ガ社會一部ノ者ノ間ニ濫費サレ一般人民ハ凶饑ヲ禦ギ孤寡ヲ振フコトガ出來ズ、故ニ國貧シク民治メ難クナルト言ツテ居ル。

以上ハ既成ノ財ヲ無用ノ事ニ濫費スルノ非ヲ言ツタモノデアアルガ、更ニ之ヲ財ヲ生産スル方面ヨリ考フルニ、奢侈品ノ生産ニ力ヲ用フレバ同時ニ日用必需品ノ生産ヲ害スルモノナルコトヲ論ジテ居ル。例ヘバ舟車ヲ爲ルガ如キ「完固輕利皆已ニ具ハル。ソレニ必ズ車ヲ飾ルニ文采ヲ以テシ、舟ヲ飾ルニ刻鏤ヲ以テスル。ソコデ女子ハ其紡織ヲ廢シテ文采ヲ修ム、故ニ民寒ユ。男子ハ其耕稼ヲ離レテ刻鏤ヲ修ム、故ニ民飢ユ」(註四)ト言ツテ居ル。且又百工ト雖其製作品ハ一般人民ノ

生活ニ必要ナル程度ニ止メ、ソレ以上ニ奢侈ノ器物ヲ製セザランコトヲ主張シテ居ル。曰ハク「凡天下ノ群百工、輪車轅陶冶梓匠、各事ニ其能クスル所ニ從ハシメ、以テ民用ヲ奉給スルニ足レバ則チ止ム。諸ノ費ヲ加ヘ民ノ利ヲ加ヘザル者ハ聖王ハ爲サズ」(註五)ト。其意ハヤハリ前ト同様ニ奢侈品ノ製造ハ同時ニ必需品ノ生産ヲ防グルモノトスルガ爲メデアラウ。

戰爭ヲ道德上ヨリ觀テ非認スベキモノトスルコトハ前ニ既ニ述ベタ。墨子ハ更ニ經濟上ヨリ觀テ其不利ヲ説イテ居ル。第一戰爭ハ財ヲ無益ニ消費スルモノデアル。即チ竹箭羽旄幄幕ヨリ矛戟戈劍乘車ニ至ルマデ、多數ノ武具戰場ニ碎折靡弊シテ反ラザルモノ勝ケデ數フルコトガ出來ナイ。第二ニ其生産ヲ障礙スルコト特ニ甚シイ。其牛馬ノ肥エテ往キ瘠セラ反リ、或ハ死亡シテ反ラザルモノモ多數デアル。其道塗ノ修遠ニシテ糧食匱絶シテ繼ガズ、百姓ノ死スル者亦多イ。其居處安ンゼズ、飲食時ナラズ、飢飽節アラズ、百姓ノ道ニ疾病ニ罹リ死亡スル者モ尠クハナイ。戰死スル者亦夥シイ數デアル。且冬ノ出征ハ寒ヲ恐レ、夏ハ暑ヲ恐レレ。然ルニ春師ヲ興サバ民ノ樹藝ヲ廢シ、秋ナラバ民ノ穫斂ヲ廢スル。是レ戰爭ガイカニ財物ヲ靡シ生産ヲ障グルモノナルカラ説イタモノデアル(註六)

次ニハ音樂デアル。是レモ墨子ハ社會生活上無益有害ノモノデアルトシテ居ル。彼以爲ラク昔聖王ハ舟車ヲ作り君子ハ其足ヲ息シ小人ハ其背ヲ休メタ。萬民之ガ爲メニ財ヲ出シテ敢テ感恨スルモノガナイ。若シ音樂ヲ用フルコト聖王ノ舟車ヲ爲ルガ如クデアルナラバ即チ我敢テ之ヲ非トセナイ。然ルニ音樂ハ果シテ如何ナル利益ガアルカ。民ニ三患アリ、飢者食ヲ得ズ、寒者衣ヲ

得ズ、勞者息フヲ得ズ、此三者ハ民ノ巨患デアル。音樂ハ一モ之ヲ救フニ足ルモノガナイ。且音樂ハ奢侈ノ風ヲ助成シ、又上下トモニ怠惰ニ導キテ生産力ヲ害スルモノデアル。即チ音樂ハ天下ノ利ヲ起スニ於イテ益無ク、却ツテ天下ノ害ヲ爲スモノデアルトシテ居ル（註七）。或ハ曰ハク昔諸侯治ニ倦メバ鐘鼓ノ樂ニ息ヒ、士大夫治ニ倦メバ竽瑟ノ樂ニ息ヒ、農夫ハ春耕夏耘、秋斂冬藏、飢餓ノ樂ニ息フタモノデアアル。今聖王樂ヲ爲サズト言フハ譬ヘバ馬ノ駕シテ脱カズ、弓ノ張りテ弛メザルガ如ク、血氣アルモノノ至ル能ハザル所デハナイカト。之ニ對シ墨子ハ音樂ノ善政ト離ルベカラザル關係アル者ニ非ザルヲ辯ジテ居ル。即チ昔音樂ノ發達セザリシ時代ノ政治ハ極メテ善政ニシテ、後世音樂ノ發達ト共ニ政治ハ退步シタ。政治上音樂ノ必シモ必要ナラザル所以ハ是レヲ以テモリカルト言ツテ居ル（註八）。

又墨子ハ當時ノ厚葬久喪ノ禮ガ、財ヲ靡シ生産ヲ防グルコト甚シキヲ指摘シテ居ル。當時ノ俗匹夫匹婦ノ死スル場合ニハ殆ンド其家室ヲ竭シ、諸侯ノ死スル場合ニハ府庫ヲ虛クシ、金玉珠璣ヲ死者ノ身ニ纏ヒ、綸組節約車馬ヲ墓穴ニ藏シ、又必ズ多ク屋幕鼎鼓几杖壺盞戈劍羽旄齒革ヲ爲リテ穿チテ之ヲ埋メル。是レ大ニ有用ノ財ヲ靡スルモノデアアル。又喪ニ處ルノ法ハ君父ヨリ姑姉妹甥舅ニ至ルマデ、親疏ニヨリテ三年乃至數月ノ喪ニ服ス。其間相率キテ強イテ食ハズシテ飢ヲ爲シ、衣ヲ薄クシテ寒ヲ爲シ、面目ヲシテ陷隕シ顔色黧黑ニ、耳目聰明ナラズ手足勁強ナラズシテ用フベカラザラシム。是レ大ニ民ノ生産ヲ防グル所以デアアル。「財已ニ成ル者ハ地ヲ穿チテ之ヲ埋メ、後ニ生ズルヲ得ル者ハ則チ久シク之ヲ禁ジテ生ゼザラシム。此ヲ以テ富ヲ求ムル到底得

ベカラザル道理デアル」(註九)ト言ツテ居ル。而シテ墨子ハ人ノ此厚葬久喪ヲ探ルヘ、其習ヲ便トシ其俗ヲ義トスルニ過ギズシテ、違フベカラザル道德上ノ原則ニ本ヅケル者ニ非ザルヲ説キ、自ラ葬喪ノ法ヲ定メテ「棺ハ三寸以テ骨ノ朽ツルマデ保ツニ足リ、衣三領以テ肉ノ朽ルマデ保ツニ足ル。地ヲ堀ル深サハ下菹漏無ク、氣ノ上ニ發洩セザル程度ニ止メ、壟ハ以テ其所ヲ標スルニ足レバ止ム。而シテ喪禮モ久喪シテ疾ムコトナク、往ヲ哭シ來ヲ哭シ、反ツテ衣食ノ財ヲ作ルニ從事シ、タダ祭祀ヲ停デ以テ孝ヲ親ニ致セバ可ナリ」(註一〇)ト爲シテ居ル。

以上ハ平時ニ於ケル節用ヲ説ケルモノデアルガ、墨子ハ猶凶歲ニ處スル方法トシテ貯蓄ノコトヲ述ベテ居ル。曰ハク「夫レ食ハ聖人ノ寶トスル所デアル。故ニ周書ニ曰ハク、國三年ノ食ナキ者ハ國其國ニ非ズ。家ニ三年ノ食ナキ者ハ子其子ニ非ズ。此レヲコレ國備ト謂フ」(註一一)ト。且彼ハ不足ヲ告グルノ極、已ムヲ得ザル場合ノ手段トシテ仕フル者大夫以下其食祿ヲ減ズルノ説ヲ爲シテ居ル(註一二)。

以上墨子ノ節用主義ハ主トシテ富貴ノ者ノ奢侈ヲ禁セントスル者デアル。是レヤガテ側面ヨリ貧困ヲ救ヒテ國ヲ富マス事トナルノデアル。勤勞主義ト併セ考ヘテ其價值ヲ知ルベキデアル。

(註一) 聖人爲政一國、一國可倍也、大之爲政天下、天下可倍也、其倍之、非外取地也、因其國家、去其無用之費、足以倍之、聖王爲政、其發令與事、使民用財也、無不加用而爲者、是故用財不費、民德不勞、其與利多矣、(節用篇上)

(註二) 非無足財、吾無足心也、(親士篇)

(註三) 古者聖王制爲飲食之法曰、足充虛繼氣、使強股肱、耳目聰明則止、……制爲衣服之法曰、冬服絺絰之衣、輕且暖、夏服綌絺之衣、輕且清則止、……然則爲宮室之法、將奈何哉、子墨子言曰、其旁可以圍風寒、上可以圍雪霜雨露、其牆潔

可以祭祀、宮牆足以爲男女之別則止、諸加費不加民利者、聖王弗爲、(節用篇中)

(註四) 完固輕利、皆已具矣、必厚作斂於百姓、以飾舟車、飾車以文采、飾舟以刻鏤、女子廢其紡織而脩文采、故民饑、男子離其耕稼而修刻鏤、故民飢、(辭過篇)

(註五) 凡天下羣百工、輪車鑄鎔陶冶梓匠、使各從事其所能、曰、凡足以奉給民用則止、諸加費不加于民利者、聖王弗爲、(節用篇中)

(註六) 非攻篇中、

(註七) 非樂篇上

(註八) 三辯篇

(註九) 財以成者、決而埋之、後得生者、而久禁之、以此求富、此譬猶禁耕而求穫也、富之說無可得焉、(節葬篇下)

(註一〇) 棺三寸、足以朽骨、衣三領、足以朽肉、掘地之深、下無洫瀆、氣無發洩於上、醵足以期其所則止矣、哭泣哀來、反從事乎衣食之財、得乎祭祀、以致孝於親、(同上)

(註一一) 夫食者、聖人之所寶也、故周書曰、國無三年之食者、國非其國也、家無三年之食者、子非其子也、此之謂國備、(七患篇)

(註一二) 七患篇、

四 國ヲ富マスノ策ト共ニ墨子ノ力説スル所ハ民ヲ衆クスルノ策デアル。何故ニ民ヲ衆クシ

ナクレバナラスカト云フコトハ墨子ハ何處ニモ明ニ説イテナイ。尤人口ヲ寡クスルコトガ生産ヲ防グルカライケナイト云フコトハ前項ニ紹介シタ所デアル。又人口ノ寡クナルコトガ國家守備ノ爲メニ不都合デアルト云フコトモ其節喪篇等ニ述ベタル所デアル。猶又「土地ハ餘アル所ナリ、士民ハ足ラザル所ナリ」(註一)トモ言ツテ居ルガ、是レハ土地ヲ闢ク爲メニ戰爭ヲ爲シ人民ヲ殺スコトハ、足ラザルヲ棄テテ餘アルヲ重ンズルモノナリトシテ之ヲ非ルニ過ギズ。土地廣ク人口稀少ナルヲ以テ人口ヲ増殖スベシト謂ツタノデハナイ。要スルニ此等ハ消極的ニ人口ヲ減少シテナラスト主張スル理由トセラレテハ居ルガ、積極的ニ何故人口ヲ増殖シナケレバナラスカトイフコトノ説明トハナツテ居ナイ。想フニ民ヲ衆クシナケレバナラスト云フコトハ、墨子ニ取リテハ

恐ラク説明ヲ費スマデモナイ自明ノ理デアツタデアラウ。今墨子ノ意ヲ忖度スルニ、蓋人間ハアラユル人爲的ノ障礙ヲ排除シテ自然ノ儘ニ繁殖スルコトガ、最天意ニ適ツタモノデアツテ、是レヤガテ吾人ノ當ニカムベキ義務デアルト考ヘテ居タモノデハアルマイカ。

墨子ハ人口増殖ヲ防グル原因數ヶ條ヲ擧ゲテ居ル。晩婚ハ其一デアル。「昔聖王法ヲ爲リテ曰ハク、丈夫年二十、敢テ家ヲ處カザルコト勿レ。女子十五、敢テ人ニ事ヘザルコト勿レト。此レハ聖王ノ法デアル。聖王殿ニ没シテ民此法ニ從ハズ、其蚤ク家ヲ處カントスル者ハ二十年ニシテ家ヲ處クアリ、晩ク家ヲ處カントスル者ハ四十年ニシテ家ヲ處クモノモアル。之ヲ平均スレバ聖王ノ法ニ後ルルコト十年デアル。若シ滿二年ニシテ一子ヲ生ムモノトスレバ、其十年間ニ子ノ生ルルコト二三人アルベキ筈デアル。是レ民ヲシテ蚤ク家ヲ處カシメ以テ人口ヲ倍加セシムベキデハナイカ」(註二)ト言ツテ居ル。重斂苛征ハ其二デアル。「其民ヲ使フコト勞シ、其籍斂厚シ。民財足ラズ、凍餓シテ死スル者勝ゲテ數フベカラズ」(註三)ト言ツテ居ル。戰爭攻伐ハ其三デアル。「大人タダ師ヲ興シ、以テ隣國ヲ攻伐ス。久シキハ終年、速ナルハ數月、男女久シク相見ズ。是レ人ヲ寡クスル所以ノ道デアル。又居處安カラズ、飲食時ナラズ、疾病ヲ作シテ死スル者、及ビ侵就饑寒、攻城野戰シテ死スル者モ勝ゲテ數フベカラズ」(註四)ト言ツテ居ル。厚葬久喪ノ害ニ至ツテ亦戰爭攻伐ニ讓ラズ。曰ハク「民ノ喪ヲ操ル、冬ハ寒ニ似ビズ、夏ハ暑ニ似ビズ。疾病ヲ作シ死スル者計ルニ勝ヘズ。其男女ノ交ヲ敗ルコトモ亦多シ」(註五)ト。且又殉死トイフコトガアル。曰ハク「天子諸侯殉ヲ殺ス衆キ者數百、寡キ者數十。將軍大夫殉ヲ殺ス衆キ者ハ數十、寡キ者ハ數人」

(註六)ト。是レ民ヲ寡クスル所以ノ四デアル。最後ニ王公蓄妾ノ弊害ハ最看過スベカラザル者デアル。曰ハク「當今ノ主其私ヲ善フヤ、大國ハ拘女千ヲ累ネ、小國ハ百ヲ累ヌ。是ヲ以テ天下ノ男多ク寡ニシテ妻ナク、女ハ多ク拘ニシテ夫無シ。男女時ヲ失フ、故ニ民少シ」(註七)ト。是レ民ヲ寡クスル所以ノ五デアル。此等諸原因ハ要スルニ男女ヲ阻隔シ又ハ其身體ヲ衰弱セシメテ其生殖力ヲ殺グモノト既ニ生存セル人民ヲ夭折セシメテ其數ヲ減少セシムルモノトノ二ツニ歸スルコトガ出來ル。是ニ於イテ墨子ノ衆民策ハ知ルベキデアル。即チ男女ノ生殖力ヲ殺ギ又ハ人民ヲ夭折セシムルガ如キ原因ヲ除去スルニ在ル。詳シクイヘバ蓄妾ヲ節シ葬喪ヲ薄クシ、攻伐ヲ罷メ苛征ヲ省キ、聖王ノ法ニ從ヒテ男ハ二十女ハ十五ニシテ婚姻セシムルコトスレバ、人口ノ増殖ハ期シテ待ツベキナリトスル者デアル。是レ當時ノ儒家法家ノ人口論ニ比シ餘程詳密ナル者デアル。

(註一) 土地者所有餘也、士民者所不足也、(非政篇中)

(註二) 昔者聖王爲法曰、丈夫年二十、毋敢不處家、女子年十五、毋敢不事人、此聖王之法也、聖王既没、于民次也、其欲畜處家者、有所二十年處家、其欲晚處家者、有所四十年處家、以其蚤與其晚相踐、後聖王之法十年、若純三年而字、子生可以二三矣、此不惟使民蚤處家而可以倍與、(節用篇上)

(註三) 其使民勞、其繕斂厚、民財不足、凍餓死者不可勝數也、(同上)

(註四) 大人惟母與師、以攻伐隣國、久者終年、速者數月、男女久不相見、此所以寡人之道也、與居處不安、飲食不時、作疾病死者、有與侵就侵襲、攻城野戰死者、不可勝數、(同上)

(註五) 是故百姓冬不仞絮、夏不仞暑、作疾病死者不可勝計也、此其爲敗男女之交多矣、(節葬篇下)

(註六) 天子諸侯殺殉、衆者數百、寡者數十、將軍大夫殺殉、衆者數十、寡者數人、(同上)

(註七) 當今之主、其蓄私也、大國拘女累千、小國累百、是以天下之男多寡無妻、女多拘無夫、男女失時、故民少、(辭過篇)

四 批 評

墨子ノ時代ハ周室漸ク衰頽シテ貴族益專恣ヲ極メ、社會ハ一般ニ繁文縟禮ニ拘ハレ侵凌爭奪ヲ事トシ、從ツテ良民ハ其虐政ニ堪ヘズ愈生計ノ困難ヲ訴フル狀態デアツタ。墨子ノ學說ハ實ニ此時代ノ狀勢ニ對スル反動思想トシテ現ハレタモノデアルコトハ前人ノ既ニ普ク說ク所、最早贅言ヲ須タナイコトデアル。又墨子ノ思想ガ一時ヲ風靡シ、其之ニ從フ者、皆火ニ赴キ及ヲ蹈ンデ死シテ踵ヲ還サズト言ハレ、後世任俠ノ基ヲ開キシ如キハ、徒ニ其學說ノ力ノミデハナク、其人格ノ感化亦多キニ居ルデアラウ。以下其思想其者ニ就キ二三短評ヲ試ミ以テ此稿ヲ終ラウト思フ。

先ヅ兼愛主義ノ根本ニ於イテ疑問ガアル。彼ハ兼愛ヲ以テ天意ナリトシ、人間ノ自利自愛ノ念ヲ以テ天下ノ大害ト爲スト同時ニ、兼愛ノ實行シ得ベキコトヲ說キテ、「人ヲ愛スル者ハ人モ必ズ從ウテ之ヲ愛シ、人ヲ利スル者ハ人モ必ズ從ウテ之ヲ利スル」ト言ヒ、自利心ヲ是認スルガ如キ口吻ヲ洩シテ居ル。サレバ梁啓超ノ如キハ此點ヲ說明シテ「墨子ノ目的トスル所ハ固ヨリ利他ニ在ルモ、其目的ヲ達スル所以ノ手段トシテ、人ノ利己心ニ因ツテ之ヲ導キタルモノデアル」ト謂ツテ居ル。手段ノ語方便ノ義ト解スレバ其說當ヲ得テ居ルト思フ。固ヨリ墨子ハ利他ヲ以テ自利ノ方便ト爲スモノデハナイ。又利他ト自利ト併セ認ムルモノト爲スモ正鵠ヲ得タルモノトハ思ハレヌ。予ノ信ズル所デハ墨子ハ到底自利心ヲ是認スルモノデナイ。天ハ唯兼愛ヲ欲スル。吾人ハスベテ天意ニ遵ヒ自利心ヲ棄テテ兼愛シナケレバナラス。但其兼愛スル所以偶以テ自利ニ一致ス

ル結果トナルニ過ギナイノデアル。墨子ハ此自利ニ一致スル點ヲ捉ヘテ其兼愛主義鼓吹ノ方便ニ供シタルマデデアル。要スルニ其出發點ハ自利心ニアラズシテ全ク利他心デアル、其目的ハ自己ニ非ズシテ社會デアルト解スベキモノデアラウト思フ。

墨子ノ兼愛ガ親疏ノ差ヲ設ケナイコトニ就キ孟子ガ無父無君ト誹ツタノハ誣ニ近イ。譚嗣同ノ如キハ親疏トハ肉體ニ拘ハルノ言ナリトシ、「天地萬物人我ヲ通ジテ一身ト爲スモノニ復タ何ノ親疏カ有ラン」ト極言シテ居ル。理論上ヨリ觀テ彼ノ兼愛主義ハ確ニ徹底シタ考デアル。唯之ヲ世ニ行フニ於テ非常ナル困難ガ横ハル。ふゝゝべるハ兼愛主義ノ殆ンド實行シ難キ者ナルヲ論ジタル末、「然シ無我ノ愛ニヨリテノミ世界ハ救ハレ得ルコトハ眞實デアル。利己心ナク克ク他人ヲ愛スル人間ガ社會ニ多クナレバ多クナル程其社會ハ善クナル」ト言ツテ居ル。是レ兼愛主義ガイカニ實行シ難シトスルモ、理論上之ヲ覆スダケノ根據ノ無イコトヲ證シテ居ル。且實行ニ於テモ絶對ニ不可能トイフ事ハ言ヘマイ。少クトモ墨子ノ徒ハ實踐躬行シタ所ノ者デアル。

次ニ墨子ノ勤勞主義ト節用主義デアルガ、コレハ莊子荀子ヲ始メ後世其勤儉ニ過グルヲ非ルモノガ多イ。併シ墨子ノ此思想ハ奢侈ト貧困トヲ中和シ、社會ノ上下階級ヲ相接近セシメントスル手段デアルコトヲ注意セチバナラヌ。而シテ其手段ガ法制ニ由ルニ非ズシテ、單ニ道德的ニ遂行サレントシテ居ルコトモ決シテ看逃シテハナラヌ要點デアル。譚嗣同ハ元來節用ヲ排斥スル論者デアルガ、併シ墨子ニ就イテハ「墨子モ尙儉非樂ヲ倡ヘテ居ルガ、彼ハ既ニ兼愛ヲ標榜セルガ爲メニ其病自ラ相消スニ足ル」ト謂ツテ居ル。實ニ其道德的ニ平等政策ヲ實行セントスル所ニ此說

(2) 『仁學』二九頁

(3) Ernst Faber, Die Grundgedanken des alten chinesischen Socialismus oder die Lehre des Philosophen Micius. (Elberfeld 1877.) p. 71.

(4) 『仁學』自序一頁

ノ價值ハ存スルノデアル。ふあゝべるハ又「固定セル所有權ヲ資本ノ支配ナドハ固ヨリ惡事デア
ル。併シ社會主義者ヤ共產主義者ガ之ヲ救済セントシテ計劃セル手段ハ尙更ニ大ナル惡事デア
ル。吾人ハ此點ニ於イテ墨子ヨリ學ブ所ガ多イ。即チ之ヲ救済スル藥劑ハ怒ヲ激成スルコトニ非ズシ
テ相互ノ愛トイフ事デアアル。サレバ共產主義者ハ異論者ニ對シテモ、又雇主ニ對シテモ、將タ政
府ニ對シテモ、互ニ親密ニシテ先ヅ自ラ其模範ヲ示サネバナラス、カクテ始メテ最後ノ結果ニ到
達スルコトガ出來ヤウ」ト言ツテ居ル。墨子ノ思想ガ社會主義若クハ共產主義ノ色彩ヲ帶ブル所
アルニ拘ラズ少シモ危險ヲ感ジナイ所以ハ即チ此點ニ存スルノデアル。

最後ニ墨子ノ思想ハ其根柢ニ於テ孔子ノ思想ト最類似シタ所ガアル。孔子ガ庶富教ヲ以テ政治
ノ要訣トスルハ、墨子ノ衆民富國兼愛ヲ提ゲテ社會改革ヲ唱道スルト何ゾ相類スルノ甚シキ。孔
子ノ仁ガ博施濟衆ヲ其終極ノ理想トスルハ、墨子ノ兼愛ト果シテ何ノ區別ガアルカ。サレバ黃震
等ノ反對ハアルモ、韓退之ガ「孔子必用ニ墨子、墨子必用ニ孔子」ト謂ヘルハ蓋至言デアラウ。想
フニ孔墨相去ルコト僅ニ數十年、兩者ノ社會ハ大體同様ノ缺陷ヲ有セシ者ト見得ル。而シテ其救
済ノ根本義トシテ、墨子ハ文ヲ斥ケテ唯質ノミヲ取ツタ。孔子ハ文ト質トヲ併セ取ツタガ就中文
ヨリモ質ヲ先ニシタ。實ニ此實ニ重キヲ置ク所是レ兩者思想ノ契合點デアアル。唯其文ノ取舍即チ
兩者思想ノ分歧點デアアル。其類似ノ多キ敢テ怪ムニ足ラナイノデアル。猶孟子ガ極力墨子ヲ關キ
シハ特ニ其似テ非ナルヲ惡ンダデアラウ。荀子ノ如キハ其偏重スル禮樂論ノ立場ヨリ之ヲ抨擊ス
ル者デアアル。固ヨリ共ニ中正ヲ得タ批評ト見ルコトハ難カラウ。(完)

(5) E. Faber, Die Lehre des Philosophen Mencius. pp. 71. 72.

(6) 『黃氏日抄』卷五十五

(7) 『昌黎集』卷十一讀墨子